

気宇壮大(学校だより)

第25号 平成20年11月4日発行

去る9月26日に学校協力者会議提言部会を開催し、10月29日に学校協力者会議評価部会を本校で開催しました。それぞれの会議の報告をいたします。

学校協力者会議(提言部会)

学校からの報告・説明

7月に実施された全国学力テストにおいては、全体的に学力向上の取り組みによる成果が出ていると思われる。

フロンティアクラスの指導態勢

フロンティアクラスの取り組みを学年全体に広げていく形を取っている。現3年生の取り組みは外部講師による休日補習・課外授業・自習のための教室開放・夏期学習合宿・個別学習支援などこれまで個別に取り組んでいたことを組織的に行うようにしている。(システムとして確立)

P T A 研修委員会進路部会について

今年度より設置された部会である。保護者を中心にした「進路に関する活動」を模索している。

学習時間調査について

進路指導部がリードし、学級担任が生徒に記入させ、集計する。現状は、1・2年の平均が1時間15分、フロンティアクラス(2年)で2時間弱。まだ十分ではないが、以前より増加している。(近隣高と同じくらいになってきている)

ボランティア活動について

地域からの要請もあり、今後は、組織的に行き、地域との連携強化を図りたい。(生徒会・総務企画部が窓口となって取りまとめる。)

耐震強度の点検について(前回の課題)

問題なしという返答をいただいている。

寮の建設について

市教委と協議をしているが、大きな進展はない。今、借り上げ等についても検討している。

体育コースの活性化について

昨日研修会を行って意見交換をした。

質疑応答

沼田高校の充実ぶりが高まってきたように感じる。

【子どもたちの生活状況について報告。昨年度より生徒指導部に教育相談係を置いている。教員・保護者の連携だけでなく、スクールカウンセラー・専門医などと連携を取りながら、生徒指導を進めている。一学期、不審者の出没が3件続けて起こった。生徒が不安を訴えるケースもあり、1学期から、生徒指導部の教員2名が7:50~8:10の間、沼田パーキング入り口(トンネル付近)で登校指導を続けている。やはり、服装の乱れが気になるが、引き続き自覚を高めるよう取り組んでいきたいと考えている。】

地域との連携意識が必要だ。

広島市の防災訓練を9月に市立大学を会場に行ったが、今後、地域でアンケートをとってみたいと思っている。(みんなの思いを知りたい。)

中学校でもタオルを首に掛けて登下校する生徒が増加している。地域の方が声を掛けて下さったり、問題行動を見て連絡して下さることがある。生徒指導面で地域は大きな力になっている。「中学校だより」を町内に回覧してもらったり、町内会長会議にも参加し、学校の様子を報告している。

青少年育成事業という観点から、大学でも、大学周辺のパトロールや清掃をしている。最近スピードを出して走行する車なども減り、落ち着いてきた。防犯については、ボランティア活動だけでは限界があるので、他によい方法があればよいのだが。例えば防犯カメラなど。

【本校でも防犯カメラを5台設置し、効果を上げているが、不審者は場所を変えて出没している。沼田パーキング下の土地を整備して、駐車場にすると連絡があった。見通しが良くなって不審者対策にもなると考えての整備である。】

進学については、近隣の中学から近隣の高校へ進学するのがよいと思うが...

生徒たちにフロンティアクラスが存在が浸透してきた。沼田・安古市高校、近隣公立2校の選択の材料とし始めている。今までの沼田高校の実績と、新しいフロンティアクラスの存在に安心感を抱いているようだ。

年々、新たな取り組みがされているが、教員の負担が増えているようだ。沼田高校で何年も教員をしたいと思います(意欲がわくような)支援が必要なのではないか。

フロンティアクラスには人数制限があるのか。

【本当は全員フロンティアクラスで頑張りたいが、フロンティアクラスはカリキュラムが違っており、国公立大学志望者向きである。履修単位も増えるため、部活動時間が確保できないなどの制限もある。本校の現状も鑑みて、現在、文・理1クラスとしている。フロンティアクラスに入って頑張りたいと考える親と、生徒の進路希望との間に意識のずれが生じているケースもあり、新たな課題である。

クラブをしたくて沼田高校に来る生徒も多くいる。クラブは沼田でしたいが、やはり国公立大学進学者が多くいる高校へ行きたいとか、進学実績は沼田高校は下降傾向だという声も聞く。

【来年度は定員が1クラス増になる。安佐南区の中学生が増えるからである。安佐南区の多くの中学生が安佐南区の高校進学を希望してくれればよいが、実態はどうだろうか。】

大塚学区の生徒は、今までも国泰寺・観音などの旧市内校に進学する生徒が多くいた。

【学校協力者会議に参加していただいている皆様方にも沼田高校の生の姿をアピールしていただければと思っている。】

大学でもオープンキャンパス・文化祭など生の姿を見せればよいと提言したいと考えている。

沼田高校にも「学校へ行こう週間」があるが、平日なので中学生の参加は難しい。

高校生が中学校のクラブ活動支援に来てくれるのは効果がある。今年、沼田高校の陸上部の生徒が練習に参加してくれた。また、伴中に、沼田高校卒業生が教育実習に来て、沼田高校出身であると自己紹介をし、泳ぎを披露した。あまりに綺麗な泳ぎだったので、生徒も感嘆の声を上げていた。このような生徒の活動はアピールになると思う。

ゼミの陸上部の生徒が、高校に部員を勧誘しに行く際、工夫して、自分たちでパンフレットを作って持参した。母校へのつながりを大切にしたい。(生徒自身がしっかり母校で)自己アピールする経験も大切だと感じた。悪いことを探すことは多くあるが、悪いことを探すのではなく、生徒に沼田高校の良い所を探させ、自信と誇りを持たせたらよいのではないかと。生徒自身が良いことを探すという視点、プラス思考が大切である。

地域の青少年育成協議会に参加したが、地域に根付いた活動になりきれていないのではないかと。地域にできる計画になっていたゲームセンターを、地域で話し合い、連合町内会の署名によって撤回させた。地域の子どもたちを育てるために「十六の会」などの組織がもっと有効に活用されると良い。

「十六の会」(沼田地区の公立の小学校・中学校・高等学校・大学が連携し、地域に根ざし貢献する活動をしようという趣旨で7年前に結成。戸山・沼田公民館で毎年11月に作品展を開催中)

学校協力者会議（評価部会）

質疑応答

(1) 家庭学習時間について

学習への取り組みは評価できるが、家庭学習時間が少ないのではないかと宿題などの課題は出ているのか。

【英数国では宿題や週末課題等が出されている。週末課題は居残り勉強での対応のため、点検に力を入れているが、通常の授業での宿題は時間がかかることもあり、点検されていないことがある。以前に比べれば「家庭学習時間が0ではない生徒」は増えている。】

毎回小テストを行う、予習をしないとついていけない授業にするなど、家庭学習時間の確保のための何か取り組みは考えられないか。

家庭での時間の使い方（学習時間だけでなく生活時間を含めて）をチェックしてみてもどうか。それにより、熱心に部活動を行っている生徒の時間の使い方を見直させることが可能ではないだろうか。またそのためには、家庭との連携が不可欠である。

【生徒の実態に即した指導を行うためにも生活時間のチェックは必要かもしれない。現在は、進路指導を系統的・組織的に行う準備をしている段階である。明日、学力向上プロジェクト研修会を行うので、生徒の生活時間全体へのきめ細かな指導のことも含め議論していきたい。】

家庭学習時間への学校側の評価の中に「上位層（時間が長い層）」の分析が入っていないので、上位層・下位層という2つの視点からデータを分析してはどうか。

【ご指摘の視点はありますが、やはり進路指導部は、学校全体の家庭学習時間について高い目標を掲げ、厳しく自己評価をしているものである。これは、現時点では、学校全体で共有すべき評価であると考えている。】

(2) 生徒の意識について

家庭学習以前に、学校での勉強習慣は身に付いているのか。家庭学習も大事だが、学校の先生によって、生徒の自己啓発が行われるような指導を行って欲しい。またそれによって、学校の授業から家庭学習へと主体的にギアチェンジが行えるのではないかと。

進学校では子ども同士での学習計画の見直しが自然発生的に行われている。

生徒をやる気にさせるための取り組みが必要である。生徒の進学への意識が低い。

【フロンティアクラスを中心とした「新しい風」の取り組みによって、受験への意識は徐々に高まっているように思う。それは模試の5教科7科目受験を希望する生徒が増えたことから伺える。しかし、まだまだ十分とは言えない。ここ数年、学習意欲・進学意識の高い層の入学減少があり、フロンティアクラスの創設など対策を講じてきたが、また、来年度から定員が40名増加するので、本校への進学について目的意識の低い生徒の増加も危惧している。そのための取り組みを考えることも急務であると考えている。】

どのようにすればクラブ活動も勉強もやる気のない無気力な生徒を、頑張らせることができるかという取り組みも考える必要があるのではないかと。例えば、校内の清美活動などや自由に表現できる場の提供などが考えられる。

【ボランティア活動のできる機会を積極的に提供することで生徒の意識に働きかけることもできると考えている。そのために現在、地域との連携を担当する窓口を総務企画部・生徒会指導部に設置した。】

LHRでの人間学の実施など、他校で実施されている取り組みを研究・分析し模倣していくということも必要なのではないか。

【現在、「広島市21世紀ハイスクールビジョン」の検討会議中で、学校の根幹から考え直す取り組みも行われているので、さまざまな角度から検討していかなければいけないと考えている。】

学校としてのこれまでの進路指導の取り組みは十分評価できる。もっと学校側が主導権を取って中学生や保護者に「沼田に入ると生徒の意識が変わる！」というようなことを発信してもよいのではないかと。

【進路目標のない子が沼田に来るとようなイメージを変えていかなければならない。結果としてそのような周囲の意識は子どもにも伝わっていく。現在、保護者にも進路指導を理解し、協力してもらう取り組み（PTA進路部会による進路説明会運営参加等）も始めた。】

本校の今年度の教育活動全般について、中間自己評価を提示し、学校協力者会議評価部会で評価とご意見をいただきました。まだ、いくつかの課題はありますが、今年度目標を達成すべく取り組みを続けます。< [中間自己評価は、本校Webページに掲載します。](#) >

沼高折々の記

「輝く沼田」アラカルト！

今夏のインターハイに出場した水泳部（個人入賞）、剣道部（女子個人ベスト8）、体操部（女子団体13位）、囲碁で2つの全国大会に出場した3年小川くん、大分国体に出場した水泳部（3年中岡さん優勝、男子入賞2名）、陸上部（3年畑くんリレー3位）など、全国大会という晴れの舞台で大いに活躍し、栄光をつかんだ生徒の皆さんに、心から拍手を贈りたいと思います。その他にも、多くの皆さんの活躍ぶりは、沼高トピックスやPTA広報などでも紹介されて、本校Webページを通じて、世界に発信されています。こうした多くの生徒の多様・多彩な「輝き」のある本校はやはり素晴らしい、「特色ある」学校だと自負しています。

今秋、10月12日、本校吹奏楽部は全日本マーチングコンテスト中国大会が開催された鳥取県民体育館で、多くの聴衆に演奏・演技を披露し、見事金賞に輝きました。全国大会出場は果たせませんでしたが、その演奏・演技は高く評価されました。実は、前日に生徒の乗車したバスが交通事故に遭うというアクシデントを乗り越えての受賞。大事に至らなかったことには胸をなで下すとともに大会に全力で臨んだその頑張りを心から賞賛したいと思います。



修学旅行に随行して

10月15日（火）から18日（土）、2年生の修学旅行で横浜・東京方面に行ってきました。旅行のことは、すでに学年だよりで報告され、PTA広報にも写真入りで報じられると思いますので、詳しくはそちらをお読みください。本校では、近年、研修・体験を中心とした修学旅行を実施し、キャリア教育の一環として自らの生き方に資するとともに、見聞を広め、知を深めることを目指しています。首都東京でしか学べないものがある、今回も生徒の多くがそれをつかんでくれたら幸いだと思っています。私は、体育コースの生徒とともに、埼玉県所沢市にある早稲田大学スポーツ科学部を訪ね、本校の何倍もある施設見学・先進的な学問体系を有す学部説明を受けました。斎藤投手や福原選手も学が大学に、2年生のコースの皆さんも大いに魅力を感じたのではないかと



います。この場でしか得られない情報、それもありました。有意義な時間を過ごせました。

しかし、「東京」はいつ行っても、そのけた外れの外観に圧倒されます。